

地域の持続と伝統祭祀に関する一考察

－沖縄県八重瀬町の調査事例をもとにして－

山本素世*

A Study on the Sustainability of the Community and Traditional Rituals
-Based on a Survey Case in Yaese Town, Okinawa Prefecture-

Soyo YAMAMOTO

要 旨

筆者は、沖縄県島尻郡八重瀬町にて伝統祭祀や伝統芸能、豊年祭の調査をする機会を得た。伝統的な祭祀や行事は、自治会が中心となって営まれており、十五夜や旧盆の祭祀や行事は地域にとって重要な行事とされている。調査の結果、伝統的な祭祀や芸能に役割を得て、参加することは、かかわっている人々にとって、地域への愛着を醸成していることが見いだせた。役割を果たすことは、住民にとって誇りに思うことであり、「地域の人」になることであった。伝統的な祭祀や行事、芸能に参加することは、どこが自分の地域であるかという自分の地域の範囲を認識することにつながっていた。そして、伝統祭祀や伝統芸能を通じて形成された道連れとなるグループの存在が確認でき、それらは、組織化されているものもあった。この道連れの存在は、地域の持続に重要と考えられる。それゆえ伝統芸能や行事の継承は、地域を持続させるための要件の一つになることが見いだせた。

キーワード：沖縄、字、伝統祭祀と祭、地域への愛着、道づれ

I はじめに

沖縄県には、本土と異なる独自の伝統的な祭祀や行事があり、那覇の大綱引きやエイサー、糸満ハーレーなど有名なものもある。また、地域ごとに様々な伝統祭祀や行事、祭りが実施されている。それらの伝統祭祀や行事は、現在もそれぞれの字や区で自治会や婦人会、青年会などの活動に含まれながら、継続されてきている。

地域自治組織と伝統祭祀や行事との関係について小林は、竹富島の種子取祭の事例を取り上げ、集落にとって伝統祭祀や行事は最も重要な共同事業であり、地域自治組織とは切っても切り離せない関係にあるとみている（小林 2008）。一方、青年と伝統芸能について山城は、沖縄の青年会の活動を調査し、青年たちが伝統芸能であるエイサーに参加することを通じて地域との繋がりを

を感じ、地域への所属意識を感じるようになったとみている（山城 2007）。秋山は、子ども時代の種子取祭参加経験を問う調査を行い、「種子取祭は、竹富人としてのアイデンティティ保持に必要な「島人であることを確認する場」である」とのべている（秋山 1997）。このように、伝統祭祀や行事は、住民の共同事業であり、地域への所属意識や愛着を意識する機会となる。

筆者は、かつて沖縄県八重山地域の波照間島にて、学校教育を通じて島の伝統的な祭祀、行事、芸能を子どもたちにどのように継承しようとしているかについて調査した（山本 2012）。伝統的な祭祀や行事や芸能を、学校の授業や運動会で体験させることで、「島のこども」であることを島の子どもたちに意識させようとする工夫が見られた。調査の結果、子どもたちが地域への愛着を形成すること、教える側の大人たちは伝統祭祀や芸能を通じて地域への誇りやアイデンティティを形成していることを見出した。

さらに筆者は、沖縄県島尻郡八重瀬町にて自治会の調査をし、祭りや行事を見学する機会を得た¹⁾。八重瀬町では、伝統祭祀や行事、伝統芸能が多く実施されている。調査から、各字に似たような祭祀や行事はあるが、それぞれの細部が異なっていることにより自分の住んでいる地域と他の地域の違いが明確に意識され、地域の範囲も意識されることがわかった。また、祭祀や行事、祭り、芸能で何らかの役割を分担してやり遂げることで、地域に貢献しているという意識がもて、地域への所属意識がつかわれていた。そのことが、自分の地域への愛着につながっていることを見いだした（山本 2020）。

これらの伝統的祭祀や行事の運営は、主に地域自治組織が担っている。行事を持続していくためには、実行委員会を設立する、自治会や青年会、婦人会が役割分担するなどの運営する側の様々な取り組みがされている。そこで筆者は地域への愛着や所属意識との関連から、「道づれ」という視点でとらえたい。杉本は、丹波篠山市における自治会長のライフコース調査から、「道づれ」という見方を提示している。道づれは、ある人の人生のある段階からその人とずっと一緒にいる親密な人々の集団とされる。この道づれがいることで、自治会長が一人で頑張って燃え尽きることなく、仲間と一緒に地域に関われるのである（杉本 2015）。伝統行事や芸能の実施や継続においても、このような道づれが存しているのではないだろうか。地域で行事を実施する時何らかの役割を担う人々は、その地域への共属感情が醸成され、共同体の結束は強まる。その時、一緒に役割を担った人々がお互いに道づれになっているのではないだろうか。それにより、さらに道づれとなるグループや地域への所属意識が強まり、愛着も強まると推察する。

筆者が、これまで調査してきた八重瀬町の事例報告では、自治会の活動に焦点を当ててきた。さらに、自治会の伝統祭祀や行事、祭りの運営面にも焦点をあてることで、道づれの存在を明らかにしていきたい。

本稿は、このような狙いに基づき、伝統祭祀や行事を地域の持続可能にする要件の一つとしてとらえ、考察するものである。

II 沖縄県の地域自治組織

本稿では、沖縄県島尻郡八重瀬町を事例地としており、本土とはやや異なる地域自治組織があ

る。この沖縄県の地域自治組織を理解しておくことは、伝統祭祀や行事をとらえる際に必要と考える。そこで、沖縄県の地域自治組織について述べておきたい。

沖縄県には、字公民館や区と呼ばれる組織がある。字公民館は、社会教育法で行政が設置した公民館とはやや異なり、自治会組織の事務所や活動拠点となっている。区は自治体にとっては行政区でもあるが、地域自治組織として自治会のように活動している地域がある。また、字の範囲で自治会や区が形成されている地域が見られる（青木 2017）。

区には、区長とよばれる代表者がいるが、区長は行政職員ではなく行政からの出向者や嘱託された行政連絡員でもない。区の住民が立候補あるいは推薦され、選挙で当選した人が区長となる。区長は、一住民でありこの点では自治会長と同様である。区には、区長、副区長、会計、書記などの役員がおかれ、評議員とよばれる役員がおかれることがある。この区長や副区長、会計書記と評議員で役員会が形成され、役員会で物事が決められていく。役員は、住民から選挙、推薦、区長の指名などの方法で選ばれる。区では、自治会費のように区費をあつめて運営の収入としている。なお、自治体や地域の組織から助成金を得ていることもあり、区が中山や駐車場、軍用地などを保有する場合は、その資産収入を得ている。これらの管理のため地縁による団体の認可を受けている区もある。区では、さまざまな行事や事業が行われており、総会で住民が承認して決定される。そのため区の主催する年間行事や事業は、住民の自治活動と同様である。名称を、〇〇自治会としている区もある。

字は、地域の範囲の単位である。これらの字は、琉球王朝時代に村であったものが多く、いわゆる行政村であった。これらが今日まで自治の単位として引き継がれている。戦後に行政区として名称を区とされたが、価値規範や祭祀をはじめ、地域を運営するという自治の意識は継続されてきた。区と字の範囲が一致している地域も、多く見られている。

本稿の事例地である八重瀬町には、字の範囲で区や自治会と呼ばれる地域自治組織がある。

III 事例地の概要

1. 八重瀬町の概要

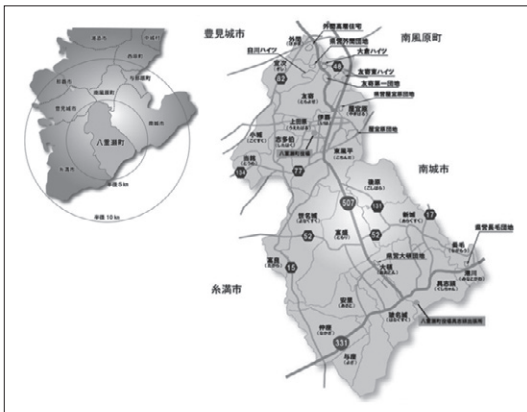


図1 八重瀬町の位置図（八重瀬町HPより引用）

本稿で事例とする八重瀬町は、沖縄本島の南部の島尻郡に位置しており、島尻郡旧東風平町と旧具志頭村が2006年1月1日に合併して誕生した自治体である。

八重瀬町は、那覇市から直線距離で約10キロに位置している人口31,982人、世帯数12,760世帯（令和3年8月末日 八重瀬町役場住民登録人口）で、面積は26.96km²である。人口は、平成2年の20,718人から平成27年29,660人と増加傾向にあった（八重瀬町HP掲載の国勢調査による）。さらに令和2年1

月末日には、人口 31,554 人となっており、依然増加傾向は続いている。なお、国勢調査によると平成 2 年から平成 7 年にかけての増加率は 11.2% と特に高くなっており、この期間に県営外間高層団地や県営大頓団地、県営長毛団地などの団地が建設されたからであると推測できる。

世帯数は、国勢調査によると平成 2 年には 5,167 世帯であったのが、平成 7 年には 6,070 世帯、平成 12 年には 6,825 世帯となっており、それぞれ 12.7%、17.5% の高い伸び率を示している。また、平成 22 年から平成 27 年には 18.3% の伸び率となり人口増加よりも世帯数の増加率が高くなっている。なお、通勤・通学先では、那覇や南風原方面への通学・通勤が多く利便性の高い地域である。八重瀬町は、今後も人口世帯数の増加傾向はつづき新住民が増加すると推測される。

2. 八重瀬町の地域自治組織

八重瀬町には、区および自治会が計 34 存している（2021 年 4 月現在）。筆者が調査した 2017 年 3 月、2017 年 7 月、9 月の 3 期²⁾では、33 の区と自治会を対象とした。

八重瀬町の 23 の字には区と称する地域自治組織が存する。これらは、かつて字が村であったころの部落会などの地域自治組織を引き継いでおおり、戦前からの字の境界を引き継いでいる。戦後に建設されてきた県営住宅や民間の開発による戸建団地があり、住居表示では 23 のいずれかの字に存しているが、字の地域自治組織である区とは別に自治会が設立されている。なお、これらの区と自治会の範囲は、八重瀬町の行政区と同じで、八重瀬町では県営伊覇団地を含むと 34 の行政区がある。八重瀬町の区と自治会は、以下のようである。

東風平地域（旧東風平町）22

区 13 （東風平、伊覇、上田原、屋宜原、富盛、世名城、高良、志多伯、当銘、小城、宣次、外間、友寄）

自治会 9（県営外間団地、県営外間高層団地、県営屋宜原団地、友寄第一団地、白川ハイツ、大倉ハイツ、友寄東ハイツ、屋宜原団地、県営伊覇団地）

具志頭地域（旧具志頭村）12

区 10 （具志頭、新城、後原、大頓、玻名城、安里、与座、仲座、港川、長毛）

自治会 2（県営大頓団地、県営長毛団地）

自治会の加入率は、調査時点では加入率が高い区や自治会もある一方、低い区や自治会もあるなど、区と自治会の違いは明確ではなく平均して 69.5% となっている³⁾。八重瀬町は、人口が増加傾向にあり、アパートなどの集合住宅が増加しており集合住宅の住民が自治会に加入しない傾向がある。このため、集合住宅の建設が多い区は、加入率が低くなる。ヒアリングでは、集合住宅以外の世帯や集落の中心部に居住している住民世帯は、ほぼ 100% が区に加入しているとの意見が多かった。

なお、区に入る（区民になる）および自治会に入る条件としては、その区や自治会の範囲に住んでいる住民であること、区民（会員）として活動する意思があり区（自治会）に申し出ること、

区費（自治会費）をおさめることとなっているところがほとんどであった。

IV 伝統祭祀、行事、祭り

1. 伝統祭祀、行事

八重瀬町では、字の伝統祭祀や行事や祭りが活発に行われており、伝統芸能も継統されてきている。それらは、琉球王朝時代の村を引き継ぐ字の範囲で行われており、実施主体は地域自治組織である区である。戦後に新設された団地である自治会では、伝統祭祀や伝統芸能は行われていない。区へのヒアリングでは、伝統祭祀や行事、芸能についてそれぞれの区に確認した（表1）。

「村拝み」は、拝所に行き、供物を祀り拝む祭祀であり、多くの区で行われていた。祭祀では、初ウクシー、清明、6月ウマチー、ウンケー、三月御願、七夕御願、シーシマーイ、豊年祭、カママーイなどがあげられている。これらの祭祀は、旧暦で行われるため、平日に実施されるものであるため、区長や副区長、役員が中心になって拝所に赴き拝みをしている。なお、拝所や御嶽は、共有地として区が管理していた。

旧盆に、綱引きを行う区がある。富盛では3年に一回、綱の材料である藁を買い入れ、区民が一堂に会して綱われるため、綱綱いは重要な行事とされている。他の区では、綱、3年に一度綱

表1 伝統行事祭祀（筆者作成）

地区名	伝統祭祀、行事（調査時点）	地域の芸能 （民俗芸能、伝統芸能）	関係組織、 芸能保存会
東風平	清明祭、あぶしばれー、旧5月ウマチー、6月ウマチー、うはち、しーしまい、旧盆綱引き、旧8月十五夜めーしんざ、めーしくみ、豊年祭、旧盆エイサー（道ズネー）、かままーい、ガンゴー祭、はちうくしー	棒術、エイサー、獅子舞	長寿会、婦人会、青年会、子ども会2、棒術保存会、エイサー保存会、青少協
伊覇	5月ウマチー、アブシバレー、6月ウマチー、カママーイ、初興し		老人クラブ、婦人会、子ども会
上田原	アブシバレー、旧12月24日師走御願、旧1月3日初御願		老人会、子ども会、青年会（休止中）
屋宜原	アブシバレー、1月ハチウクシー		老人会、子ども会、オヤジの会
富盛	前拝み、5月ウマチー、6月ウマチー旧盆ウンケー、旧盆中日、旧盆エイサー（道ズネー）、伝統保存会初興し、十五夜、タントイ棒、総御願、カマの御願、龕の祝い拝み、旧正月拝み新年祈願、初興し祈願	十五夜の唐人行列、大和行列、ヨンシー、組踊、旗頭。綱引き。棒術、旧盆の道ズネー、エイサー	青年会、子ども会、婦人会、老人会、伝統芸能保存会
世名城	清明祭、三月御祭・三月御初、三日御タカビ、五月御祭、六月御初・六月御祭、七夕御願、ウンケー御願、ウークイ綱引き、ウスデーク御願、コーヌ御願、メーシクミ御願、八重瀬の御願、カママーイ、師走の御願、初起こし、二月御祭	十五夜のウスデーク、棒術	女性会、老人会、子ども会、棒術保存会、ウスデーク保存会
高良	ウハチ拝み、5月ウマチー、ミイチャタカビ、夕盆、カー拝み、6月ウマチー、夕盆、カー拝み、夏ヌウハチ、七夕綱引き、ウンケー綱引き、8月十五夜拝み（奉納舞踏）、十五夜祭、白露の拝み、カママーイ、ウガンプトチ、旧正月拝み、ハチウクシー、カー拝み	花笠踊り、ヌグイクライタカヒラマンザイ（踊り）	老人会、青年会、子ども会

地区名	伝統祭祀、行事（調査時点）	地域の芸能 （民俗芸能、伝統芸能）	関係組織、 芸能保存会
志多伯	清明祭、アブシバレー、5月ウマチー、6月ウマチー、綱引き、6月ウガン、7月ウガン、7月綱引き、彼岸、十五夜ウガン、石獅子ウガン、菊酒、水のウガン、シーシウガン、初起し、獅子加那志（十五夜豊年祭、年忌）	獅子舞、棒術、組踊	老人会、婦人会、青年会、子ども会、伝統文化保存会、獅子舞棒術保存会
当銘	3月ウガン、清明、アブシバレー、5月ウマチー、綱うち、6月ウマチー 6月ウガン、6月つなひき、7月綱引きウークイ、カママーイ、安里毛ウガン、初ウクシー、龕甲祭（年忌）	棒術、龕甲祭（組踊、旗頭、芝居など）	老人会、女性会、青年会、子ども会、保存会（棒術、三線）、
小城	初判断、アブシバレー、ヤハタ収集、床ウマチー、5月ウマチー、6月ウマチー子ども綱引き、6月御願、七夕、綱引き、エイサー、菊酒、シマクサラシ御願、年末御願、初御興し、龕甲祭（年忌）	棒術、龕甲祭（組踊、旗頭、芝居など）	老人会、婦人会、青年会、子ども会、棒術保存会
宜次	豊見蔵シーミー、ヤマアキー、5月ウマチー、6月ウマチー、人頭拝み、ソーロー拝み、旧盆大綱引き（3年に一回）、ヨーカビー、今帰仁廻り、旧9月9日島腐らし、ヨーカビー、ガンゴー、年頭拝み、ウガンブトウチ、カーウビー、20日正月、2月ウマチー	棒術	スバル老人会、女性会（2017年より休止）、子ども会、（青少協）、棒術保存会
外間	清明祭、5月ウマチー、6月ウマチー、チヂヌウガン、ウークイ、旧8月16日サチヒジャー拝み、旧9月9日クングアチクニチー、1月初ウクシー	旧盆子どもエイサー、子ども獅子舞（道ズネーをする）	老人会、女性会、子ども会、青少協
友寄	初ウビー、旧十六日祭、アブシバレー、5月ウマチー、清明祭、神シーミー、カシチー祈願、十五夜祭（道ズネー）、ウンケー、ウークイ、シーシーうがん、カシチーうがみ、トゥンジー、チムジュリー祈願、ムーチー、旧112月24日ウガンブトウチ、旧1月3日ハチウビー	獅子舞、棒術、エイサー	青年会、子ども会、棒術・獅子舞保存会
具志頭	清明祭、ハマガー掲示、3月の御願、アブシバレー、十五夜の御願、ゴーの御願、師走の御願、彼岸掲示、綱引き（3年に1回）	旧盆エイサー、汗水節、組踊	老人会、青年会、子ども会、体育部、汗水節保存会
新城	清明祭、アブシバレー祝い、6月ウマチー、エイサー盆踊りの夕べ、菊酒拝み、龕屋拝み、新正月拝み、旧正月拝み	シーヤーマー、エイサー	老人会、青年会、子ども会、シーヤーマー保存会
後原	アブシバレー、旧7月11日盆踊り、旧9月9日（菊酒）拝み、旧12月24日拝み、旧1月3日（初ウクシー）拝み		老人クラブ、婦人会、子ども会、青年会
大頓	清明祭、アブシバレー、旧9月9日クングワチクニチーの拝み、初拝み、初興し		老人会、子ども会
玻名城	清明祭、アブシバレー、ウンケー、旧盆、シーサーウークイ、彼岸、旧十五夜（道ズネー）、旧9月9日、青年エイサー祭り、浜下り	獅子舞、棒術、エイサー	老人会、婦人会、子ども会、獅子舞保存会、青少協
安里	3月御願、地の御願、アブシバレー、5月ウマチー、6月御願、ウフデーク、十五夜綱引き、9月御願、ヤフシギの御願、新年ウビー御願、ギーザウビー御安	棒術、ウフデーク、エイサー	老人会、婦人会、子ども会、青年会、保存会（棒術、ウフデーク）
与座	浜下り、清明祭、アブシバレー、与座の殿清掃、世持井清掃、七夕御願、根屋ウークイ、十五夜御願、9月御願、ムーチー御願、16日祭		老人会
仲座	清明祭、アブシバレー、十五夜御願、角力大会、ムーチー御願		老人会、婦人会、青年会、子ども会
港川	ハーレー祭、角力大会、旧10月10日火・水の御願、汗水節フェスタ、シワシの御願、旧正月（ソーグアチ御願）、初興し、3月立ち御願		老人会、子ども会、漁協、愚臭対策委員会、角力保存会
長毛	村拝願		老人会、子ども会

（引用 山本 2020 筆者作成より）

いそれ以外の年は修理をおこなわれる。ウークイには、エイサーの道ズネーをする区もある。

豊年祭は、旧8月15日の十五夜の行事である。毎年行う区もあるが、志多伯のように年忌（1年3年7年13年25年33年）ごとに行われる区もある。当銘と小城は、年忌ごとに共同で豊年祭である龕合祭を行っている。この龕合祭では、午前共通の龕にそれぞれの区長と一緒に参拝し、拝みをおこない、それぞれの区から旗頭がでてきて競り合いがおこなわれる。その後、それぞれの区にもどり舞台で棒術や歌謡、踊り、組踊、演劇などが披露される。他にも十五夜の行事では、富盛の唐人行列や大和人行列、玻名城の弥勒など区ごとに特色がある。

区の年中行事で最も重要とされているのは、十五夜の行事、豊年祭である。午前中に拝所で村拝みをし、夕方から夜半にかけて公民館前や馬場に舞台が設置され歌謡、踊り、演劇、棒術、獅子舞をはじめとした様々なプログラムが4時間から6時間近くかけて演じられる。終了は、しばしば23時頃になる区もあり、2日間かけて行われる区もある盛大な行事である。豊年祭は、多くの人手が必要であるため、平日の実施が難しいという理由で、十五夜当日は拝みを行い舞台や道ズネー、綱引きはその直後の土日に行うようになった区もある。なお、舞台に演者として参加できるのは、区民、区民の直系子孫としているなど、区によって異なる。転入者は、区民になると参加できるそうである。しかし、綱引きで一斉に綱を引きに行くときは、区民かどうかわからないので区民でなくとも参加を容認しているそうである。

ここでは、これらの祭祀行事について、区長や区の役員が拝所に行き「拝み」を行ったり舞台の運営などについて、区が主催して行っていることを確認しておきたい。

2. 伝統芸能

八重瀬町では、棒術、獅子舞、ウフデーク、歌謡などの芸能が行われている。舞台では、組踊が演じられることもある。実施している区では、伝統芸能の保存会が設立されているところが多い。先述のように旧盆や十五夜（旧暦8月15日）は、重要な祭祀行事として区で盛大に行われ、それにとまってこれらの伝統芸能も披露される。

獅子舞は、友寄、東風平、志多伯、玻名城で行われている。玻名城の場合、旧盆に獅子舞の道



写真1 道ズネー（筆者撮影）



写真2 多くの人が参加する棒術（筆者撮影）

ズネーが行われており、沿道では多くの住民がいて、獅子に赤ちゃんや幼児をかじってもらうと健やかに育つという縁起をかついだ行動も多くみられた。

八重瀬町でもエイサーが行われている。エイサーは、もともと八重瀬町内の字で演じられてきた芸能ではない。青年会の活動の一環として、10年ほど前に宜野湾市や沖縄市の青年会に師事して導入されたものである。それぞれの区で独自のスタイルや衣装があり、旧盆や夏まつり、敬老会などで披露されている。始められてから10年を経過して、演じ手や地域の人にとっては、一つの伝統と認識されつつあるとみられる⁴⁾。

棒術では、1人あるいは少数での保存会メンバーによる演舞だけでなく、地域の子も達、一般の大人が大勢参加する演舞も見られた。

3. 行事の運営と担い手

それでは、これらの行事や祭りは、どのように運営されているのだろうか。これらの行事や祭りは、区が主催者となって行われている。そして、保存会、婦人会、青年会という組織が、それぞれの役割を担いながら行事を支えている。この点では、従来から自治会とともに存する組織によって担われているといえる。

主催は、区と呼ばれる字自治会であるため、全体のスケジュールや予算、会場設営、場所、警備、関係者への連絡などの全ての面を、区が取り仕切る。区長だけでなく、役員や班長総出で、役割分担している。また、婦人会は、当日の受付や来賓の接待などを担当し、踊りなどの演目を担当することもある。青年会は、エイサー、棒術、舞台での演舞や会場設営の協力などを担う。

東風平では、保安員と呼ばれるグループがある。保安員は、ジュウニン頭と呼ばれる12名の男性で、任期は1年で、一生に一度だけ務めることができる。保安員は、綱引き（旧7月16日）、八月十五夜祭で活動する。綱引きでは、綱を縛ったり旗頭の制作、進行や安全管理、旗頭を持ち、八月十五夜祭では、獅子ケーラサーと呼ばれる獅子舞を担当するのである。この保安員は、八月十五夜祭では、非常に重要な役割であるため祭りの場で、今年のメンバーとして観客に全員が紹介され、そこでは、どの門中、家の人かも紹介されており、地域にとってもその一族にとっても誇らしい場であった。

年忌で行われている志多伯の獅子加那志（豊年祭）では、実行委員会方式がとられている。以前は、区長が一人で行事を取り仕切っていたそうであるが、負担が大きいため継続していくためには、役割分担をしっかりと必要があると、実行委員会方式がとられるようになった。筆者が視察した7年忌（2018年）でも実行委員会があり、区、地謡のサークル、保存会などが、総務や舞台などの部会に分かれて役割分担しており、実行委員会で進捗を報告しあっていた。これにより、地域の人々の役割分担が明確になり、全員で取り組んでいると意識されやすくなったと、実行委員会の事務局長は語っていた。

同じように年忌にて龕合祭（豊年祭）が行われている当銘の場合、筆者が視察した25回忌（2017年）では、実行委員会方式ではなく、区長が中心に取り仕切るやり方であった。区長は、舞台の段取りや予算、寄付の依頼などすべてに関わるため、かなり忙しく負担が大きいと述べていた。

このように、いくつかのやり方がある。なお、こうした祭りや行事への参加資格は、区に在住

しているか、区に在住している人の直系子孫とされる区があり、舞台への参加資格と同様であった。転入者は区の在住者になるので、区民になると参加できることになる。区民以外でも、祭りや行事の見学は可能である。

V 考察

以上、伝統祭祀や行事、祭りについてみてきた。そこで、3つの点から考察しておきたい。

一つ目は、地域への愛着との関係である。伝統的な祭祀や行事、祭りは、地域によって細部が異なる。八重瀬町の場合でも、棒術や獅子舞が行われている区は複数あるが、衣装や演舞などは異なっている。筆者は、東風平と志多伯の獅子舞を見学したが、獅子の姿や演じ方が異なり、同じ流派の地謡でも、楽器やテンポが異なっていた（山本 2020）。子どもの頃から、同じ棒術や獅子舞を見ていると、それが当たり前として意識され愛着もわくであろう。他の区のものを見た時に自分の区との違いが明確に感じる。そして、「自分の地域では、こうである」と意識され、自分の地域の範囲も意識される。また、獅子舞や棒術は、子ども達からみるとかっこいいものである。いずれは、大人のようにやりたいと思う子ども達たちもいるし、棒術は子どもたちの演舞もある。自分で演じられるのも、地域への愛着の醸成につながると考えられる。

2つ目は、所属意識、役割意識との関係である。運営面では、様々な役割分担がある。区長として、十五夜祭を取り仕切り盛大に無事に終了することは、とても重要であり名誉で誇らしいことなのである。それは、協力して役割を分担して、祭りを達成する人たちにとっても同様である。筆者が、見学した祭りの終了時には、区長やかかわった人たちは、とても誇らしげで達成感に満ちた表情であり、区長から「これで区長の役割を達成した。」というコメントも聞いた。

また、青年たちにとって獅子舞の演舞をまかされることは、とても名誉なことであり字の重要な役割を任されていることを意味する。東風平の保安員は、一生で一度であり保安員になることで獅子舞の演舞ができる。つまり、一生に一度獅子舞を演じるのである。また、旗頭についても、一人で持ち手となることは、名誉なこと地域の人達から一人前と認められることである。このように祭りにおいて役割をこなすことは、地域で一人前であると承認されることになる。役割を担うことで地域への所属意識が高まり、地域へ貢献できる人とみなされ地域の人々から賞賛と承認を得られる。



写真3 ジュウニン頭による旗頭（筆者撮影）

3つめは、道づれである。これらの行事や祭祀は、区や婦人会、青年会、保存会、保安員のような集団で取り組まれる。祭りは、短い期間に多くの時間を割いて行われるため、協力が不可欠である。そこで、これらの人々の活動は、密にかかわり、苦楽を共にする仲間となっていくことが想像でき、道づれとなっていく。例えば、志多伯の棒術の保存会では、年代ごとに、同級生やすぐ上の先輩後輩という仲間がおり、

内部でいくつかのグループになっていることがわかった。また、東風平の保安員は、保安員同士に強い結びつきがあるようで、舞台では昨年の保安員によるダンスが披露されるなど、任期が終わってからも付き合いが続いている様子が見受けられた。さらに志多伯では、区長の同級生だから、実行委員会の総務を引き受けたというコメントも得た。このように、祭りに関わることによって、道づれができていたり、もともとの道づれが強化される。青年会や保存会、保安員は、やがて区の役員になっていく人びとであると推察する。彼らは、伝統祭祀や伝統芸能を通じて字への所属意識が高くなっている人々であり、伝統祭祀や芸能の継続に意味を感じている人々であると考えられる。道づれを得ることで、継続への意識が強化されたり所属意識が強化されていくことが予想される。そう考えると、祭りの持続だけでなく、区の持続にも重要であると推察できる。

VI おわりに

筆者は、本調査において、八重瀬町内での多くの伝統行事や芸能を見学してきた。どの行事でも、住民たちは沿道にでてミチズネーをみて、子どもたちが獅子を追いかけ、舞台の下から演者に呼びかけ、みんなが楽しんでた。敬老席の年長者は、演者たちに「〇〇は、もう一人前や」などと声援を送っていた。どの字の区長も、十五夜の行事をしっかりとやるのが字にとってとても重要であると述べていた。

綱引きでは、東と西に分かれガーエー（競り合い）のあと、綱を引く瞬間に周りで見えていた人たちが綱に向かって走っていき一斉に綱を引く姿があり、たとえ一瞬であっても地域の一体感を体験するものだなと感じた。祭りだけでなくこうした体験の積み重ねが、地域への愛着を醸成することにつながる。転入者で区民になった人は、しっかり練習すれば、区民総出の棒の演舞にも参加可能と聞いた。

役割を担うことは、地域での居場所と承認を得ることにつながる。これも所属意識と地域への愛着につながるであろう。視察した祭りの終了時の区長や婦人会の人々の様子、演技を終えた子どもたちの高揚した様子から、達成感を感じていることが伝わってきた。これらの祭りに参加することは、それぞれに誇らしいのであろう。志多伯では、前に一緒にやったから今回も一緒に誘ったという高校生達、また次も一緒に踊りをやろうねという小学生達の様子から、一緒に参加することで仲間ができ、道づれとなっていくであろうことが伺えた。

しかし、祭りを継続していくためには、今後も様々な工夫が必要となろう。転入者の多い地域では、転入者に関わってもらうことが、担い手の問題の解決につながる。東風平では、子どもエイサーを始めて、エイサーに興味を持ってもらいたいと保存会会長が述べていた。そして、将来は青年会に入ってもらい、地域に関わってもらいたいそうである⁵⁾。

また、当銘では、今のやり方では続けられなくなるかもしれないということで、実行委員会方式を取り入れることや、積立金をすることも検討しているそうである。

筆者は、こうした旧盆の行事や豊年祭を中心にいくつかの区について、さらに詳細をヒアリング調査をつづけてきた。これらの調査結果については、別の機会に整理して報告していきたいと考えている。

謝辞

今回の自治会調査に協力いただいた区長、自治会長、青年会をはじめとする八重瀬町の皆様に厚く御礼申し上げます。また、調査にあたりアドバイスと協力をいただいた八重瀬町総務課にも、御礼を申し上げます。

注

- 1) 本稿は、平成 28-30 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））課題番号 JP16H0306 『沖縄県の自衛隊及び米軍所在自治体における地域アソシエーションの実証的社会集団研究』課題番号 JP16H0306 研究代表 平井順（吉備国際大学）の成果に基づく。
- 2) 調査時期 第 1 期 2017 年 3 月 6 日～14 日、第 2 期 2017 年 7 月 25 日～8 月 3 日、第 3 期 2017 年 9 月 3 日～9 月 8 日 この期間に区および自治会の公民館に赴き、区長、自治会長を対象にヒアリングを行った。区や自治会の役員や地域の識者が同席する場合もあった。また、できる範囲で総会資料や行事表の提供をしていただいた。なお、県営伊覇団地は、調査時点では建設中だったので調査対象としていない。
- 3) 調査の際に八重瀬町より提供された「八重瀬町平成 28 年度行政区別統計資料」による。
- 4) 東風平では、エイサーを初めて 10 年がたったことから、地域の芸能としてつづけていきたいと青年会の OB が中心になってエイサー保存会を設立している。筆者は、旧盆のエイサー道ズネーを見学したが、エイサーの若い演者の一人が、「東風平の伝統としてエイサーを続けていきます」とコメントしており、地域に根付いてきている様子がうかがえた。
- 5) エイサー保存会では、子どもたちがエイサーに親しめるようにと子どもエイサーを始めたそうである。保存会の代表は、子どもの頃からエイサーを好きになってほしい、青年になっても青年会で続けてほしいと述べていた。

引用文献

山本素世（2020）：沖縄県の自治会と行事・祭祀に関する一考察．評論・社会科学 133, 同志社大学社会学会, 125-126. 表 2

参考文献

- 小林文人（2008）：竹富島の集落組織と字公民館－2007 年調査レポート－．松田武雄（編）沖縄の字（集落）公民館研究 第 4 集, 九州大学, 165-174.
- 山城千秋（2007）：沖縄の「シマ社会」と青年会活動．（株）エイデル研究所
- 秋山裕之（1997）：祭にみるアイデンティティの保持と敬称 - 事例：竹富島の種子取祭 - . 沖縄民俗研究第 17 号, 沖縄民俗学会, 1-40.
- 山本素世（2012）：第 4 章 伝統行事、祭祀の継承と地域の持続性 - 波照間島の学校の取組を事例として - . 変貌する沖縄離島社会, ナカニシヤ出版, 73-91.
- 山本素世（2020）：沖縄県の自治会と行事・祭祀に関する一考察．評論・社会科学 133, 同志社大学社会学会

会,111-136.

山本素世 (2017) : 八重瀬町調査報告 (1) . 平成 28-30 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 課題番号 JP16H0306 沖縄県の自衛隊及び米軍所在自治体における地域アソシエーションの実証的社會集團研究 . 研究代表 平井順 (吉備国際大学) 研究成果報告書第 1 輯 , 25-32

山本素世 (2018) : 八重瀬町調査報告 (2) . 平成 28-30 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 課題番号 JP16H0306 沖縄県の自衛隊及び米軍所在自治体における地域アソシエーションの実証的社會集團研究 . 研究代表 平井順 (吉備国際大学) 研究成果報告書第 2 輯 , 51-62.

杉本久美子 (2015) : 第 3 章 地域の暮らしを支える - 自治会長のライフコースから - . 藤井和佐・杉本久美子 (編) . 成熟地方都市の形成 - 丹波篠山にみる「地域力」, 福村出版 104-136.

青木康容 (2017) 「戦後那覇市における住民自治組織の形成と展開 - 字系自治会・行政区系自治会・校区コミュニティ -」未発表論文

東風平公民館 (2018) : 字東風平 祝豊年祭, 東風平公民館

八重瀬町ホームページ <http://www.town.yaese.lg.jp/> (最終アクセス 2021 年 9 月 15 日)

八重瀬町教育委員会編 (2015) : 八重瀬町の歴史 (概要版) , 八重瀬町教育委員会

具志頭村史編集委員会編 (1991) : 具志頭村史 第二巻, 具志頭村史編集委員会

東風平村編 (1976) : 東風平村史, 東風平村

八重瀬町役場編 (2009) : 響け八重瀬のくくる 八重瀬町勢要覧, 八重瀬町役場

八重瀬町教育委員会編 (2015) : 八重瀬の響き 八重瀬町教育委員会

Abstract

I had the opportunity to survey the neighborhood association in Yaese town, Shimajiri, Okinawa Prefecture. Traditional rituals and festivals are run mainly by neighborhood associations, and rituals and events of the 15th night and the old Bon festival are important events for the local community. As a result of the survey, it was found that gaining a role in traditional rituals and performing arts and participating in them fostered an attachment to the community for those who lived there. To play a role was to feel proud of the residents and to be a "local person".

Also, they recognize the ward as their own ward by participating in traditional rituals and performing arts. Furthermore, it provided recognition of a close-knit group and a feeling of camaraderie. Some of them were organized.

I found that the inheritance of traditional performing arts and festivals is one of the requirements to sustain the region.

Keywords: Okinawa, ward, traditional rituals and festivals, attachment to the community, camaraderie

Abstract**A Consideration of the “Haircutting Phantoms” in the Early Modern Period:
“Kaii” and Media Theory**

Norio MURAKAMI

This article is a study on the strange phenomenon known as *kamikiri* (“haircutting phantoms”) that appeared sporadically in urban areas in the early modern period. In previous studies, it was discussed based on only a small number of cases. There are actually more than 30 historical materials documenting *kamikiri*. While at first glance the contents are diverse, careful attention shows certain characteristics determined by the type of media. In stock-type media, *kamikiri* are regarded as being the work of devilish foxes. This is a rational interpretation consistent with the information accumulated. On the other hand, through rumors and in other printed materials, this phenomenon was freely interpreted in various ways. As a result, the image of *kamikiri* was diversified and amplified through such media.

Keywords: strange phenomenon, *kamikiri* (“haircutting phantoms”) , media